

事業番号	06 01 02	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	環境保全研究所費	部局	環境部	課・室	環境政策課	
		実施期間	H7～	E-mail	kankyo @ pref.nagano.lg.jp	

### 1 現状と課題

- ・気候変動による様々な影響や、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症の脅威が、これまで以上に身近に迫っている。
- ・また、水環境、大気環境では、一部の環境基準が未達成の状況であり、さらに、生物多様性の保全や野生鳥獣に係る問題も発生している。

### 2 事業目的

- ・上記の課題に対応し、環境・健康を守るために試験検査、調査研究、学習交流・情報発信などを推進する。
  - 1 迅速で正確な検査により行政のバックアップ
  - 2 行政課題を反映させた調査研究の実施
  - 3 県民に開かれた信頼される研究所

### 3 事業目的を達成するための取組

#### ① 試験検査の実施及び危機管理事業への対応等

- ・環境分野：環境保全推進のため、河川湖沼の水質モニタリング、大気常時監視、原発事故に係る放射性物質検査、マイクロプラスチックの実態把握調査、魚類のへい死など危機管理事象の原因調査及び環境影響調査等
- ・保健衛生分野：健康づくり推進のため、新型コロナウイルス感染症に係る遺伝子検査や食中毒発生時の原因調査、食品中の残留農薬検査等
- ・外部精度管理：試験検査結果の信頼性の確保及び精度の向上のため、外部機関が行う精度管理事業へ参加

#### ② 調査研究の推進

- ・環境分野：水環境、大気環境、自然環境の保全、気候変動影響及び適応策等に関する調査研究
- ・保健衛生分野：感染症や食中毒、食品中の農薬実態等に関する調査研究

#### ③ 学習交流・情報発信

- ・自然ふれあい講座：自然と触れ合いながら自然環境の課題について学ぶ機会の提供
- ・信州自然講座：信州の自然環境について研究成果の発表と地域課題についての意見交換
- ・サイエンスカフェ：研究所の業務、研究の話題を提供して直接対話しながら科学について学ぶ機会の提供
- ・出前講座：県民の要望に応じ、オンライン又は現地に出向き講演
- ・ホームページ：研究内容の紹介や活動の近況を発信

### 4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R3年度		R4年度		R5年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	推移	実績	推移	実績	推移			
①	外部精度管理結果(良好である項目の割合)	%	100	→	100	→	100	→	100	達成	外部機関による評価により公正な評価が期待できる。目標値はすべての項目について良好を目指すもの。
②	環境保全等に関する研究数	件	27	↘	26	↘	23	↘	27	未達成	研究数は研究の活性度の指標となる。目標値はここ数年の研究数を考慮したもの。
③	学習交流等で参加者の満足度(アンケート調査による満足・おおむね満足の割合)	%	92	↗	94	↗	96	↗	95	達成	参加者の満足度は開催した講座等の啓発効果を測る指標となる。目標値は最近の結果を考慮したもの。

### 5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
1-1③	良好な生活環境保全の推進	湖沼における環境基準達成率	%	2021 (R3)	40.0	2022 (R4)	46.7	2023 (R5)	73.3	2027 (R9)	60.0
1-5②	充実した医療・介護提供体制の構築	該当なし									
1-1②	人と自然が共生する社会の実現	自然公園利用者数	万人	2021 (R3)	2,304	2022 (R4)	3,113	2023 (R5)	3,538	2027 (R9)	3,820

### 6 事業コスト

（単位：千円、人）

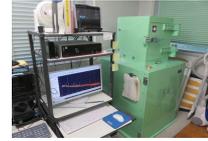
区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)			
R5年度	0	108,148	△ 8,713	99,435	83,977	85,010	59.0
R4年度	0	96,884	△ 3,259	93,625	79,324	85,158	59.0
R3年度	0	109,633	△ 11,635	97,998	71,429	82,294	59.0

事業番号	06 01 02	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	環境保全研究所費		部局	環境部	課・室	環境政策課

## 7 主な取組実績と成果

### ①試験検査の実施及び危機管理事業への対応等

- ・環境分野では、河川湖沼の水質モニタリング、大気常時監視、原発事故に係る放射性物質検査、マイクロプラスチックの実態把握調査、水質汚濁事故における油流出事案に対応し、原因究明のため成分分析等を実施。
- ・保健衛生分野では、新型コロナウイルス感染症に係る遺伝子検査や食中毒発生時の原因調査、食品中の残留農薬検査等を実施。
- ・外部精度管理のため、外部機関が行う精度管理事業へ参加。



放射性物質検査

### ②調査研究の推進

- ・「1 現状と課題」に対応し、行政ニーズを踏まえて研究課題を設定。
- ・環境分野では、水環境の保全に関する調査研究（「諏訪湖の底質環境の特性に関する調査研究」等4題）、大気環境の保全に関する調査研究（「VOC排出インベントリを活用した大気汚染状況の把握と光化学オキシダントの削減対策の検討に関する研究」等3題）、廃棄物対策及び循環型社会への取り組みに関する調査研究（「河川におけるマイクロプラスチックの実態把握に関する研究」等3題）、自然環境の保全、気候変動影響及び適応策等に関する調査研究（「野生鳥獣の保護管理にむけた生態及び被害対策に関する調査研究」、「気候変動適応に必要な基盤情報の整備と情報発信」等6題）を実施（研究課題計16題）。
- ・保健衛生分野では、感染症の発生状況の把握等に関する調査研究（「呼吸器系ウイルスの疫学等に関する調査・研究」等4題）や食品の安全性の確保に関する調査研究（「食品中の農薬残留実態に係る研究」等3題）を実施（研究課題計7題）。



遺伝子検査

### ③学習交流・情報発信

- ・環境及び保健衛生に関する研究所の業務・施設について、県民の皆様を知っていただくため、施設公開、親子環境講座を安茂里庁舎、飯綱庁舎にて4年ぶりに開催。参加者は延べ124名。
- ・自然ふれあい講座（「みんなで温暖化ウオッチ〜セミのぬけがらを探せ！2023」）を県内6会場にて6回開催。参加者は延べ115名。
- ・信州自然講座 SDGsフォーラムin信州上田「みんなで捉えろ！気候変動と生物多様性」と題して、上田市のサントミュージアム大ホールにて、当研究所の職員による講演2題、筑波大学、筑波大学山岳科学センター、信州大学及び(株)キリンホールディングスによる講演各1題のほか現地参加者にむけた企画展示を実施。ハイブリッド開催とし、参加者は延べ584名。
- ・山と自然のサイエンスカフェを4回（「土壌からみた今昔」、「シカのはかり方」、「花の上で数万年暮らし続けるはどうなるか」、「野火と縄文草原」）、人と健康のサイエンスカフェを1回（「食品検査ってどんなもの？」）、計5回をくらしふと信州または県立図書館にて開催。参加者は延べ108名。
- ・研究所で調査・研究を行っている環境、保健衛生に関わるテーマについて、出前講座として県民の要望に応じ、現地に出向き講演を実施。令和5年度は「長野県と気候変動」、「飯山雪国大学 地域学講座「千曲川学」千曲川のなりたち」、「長野県の自然の特色・野生動植物の生態とその保全」、「長野県の水環境の保全」等のテーマで12回開催。参加者は延べ395名。
- ・ホームページを活用し、研究内容の紹介や活動の近況（調査研究における現場での調査活動、中高生の職場体験実習、インターシップなどの様子）を発信
- ・情報誌を発刊。（The信州エコ・へるす：年2回発刊・送付先468件、みどりのこえ：年2回発刊・送付先579件）



サイエンスカフェ

## 8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	外部精度管理結果(良好である項目の割合)	R4年度推移	→	R5年度推移	→	達成状況	達成
外部評価において、研究所の業務（事業）や各部における調査・研究内容が「適切である」との評価を受けている。							
指標②	環境保全等に関する研究数	R4年度推移	↘	R5年度推移	↘	達成状況	未達成
長野県の豊かな環境の保全と保健衛生の向上を図るため研究を実施した。研究課題を精査して新たな研究課題も設定したが、終了した課題もあり目標を下回った。							
指標③	学習交流等で参加者の満足度(アンケート調査による満足・おおむね満足の割合)	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	達成
関心があるテーマを設定したため、満足・おおむね満足の割合が80%を超え、多くの参加者に満足いただいた。							

## 9 今後の事業の方向性

### (1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・行政施策の立案の科学的裏付けや危機管理事業の原因究明調査のため、高度な検査が求められているが、それに対応する技術力の維持や、測定機器の老朽化などの課題がある。
- ・その時々行政課題やニーズに則した調査研究も求められる。
- ・県民に開かれた信頼される研究所とするため、実施している業務や調査・研究の成果について、広くわかり易い情報発信が必要。

### (2) 事業改善の方策

- ・高度化する検査に対応した技術を維持するため、国などが主催する研修等への積極的な参加や、OJTによる技術の継承を進め人材の育成を図るとともに、計画的に分析機器の更新を進める。
- ・翌年度に実施を予定する研究課題について早い段階から県庁関係課等の意見を聴取し、研究課題に行政の視点やニーズを反映させる取組を継続する。
- ・当所の取組や環境・保健衛生に関する身近な話題を県民等に分かりやすく伝えるため、定期的に情報誌を発行するとともに、サイエンスカフェや公開講座などの広報活動を行う。

事業名	<b>環境保全研究所費</b>	部局	環境部	課・室	環境政策課
-----	-----------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
<b>1</b>	<b>環境保全研究所管理費</b>	49,298 千円	63,373 千円	67,813 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	庁舎（安茂里、飯綱） 管理経費	直接	庁舎光熱水費 燃料費 施設修繕費 等 受電設備、貯水槽等施設修繕3か所	
2	庁舎（安茂里、飯綱） 点検等経費	委託	消防施設保守点検業務 空調設備保守点検業務 電気保守点検業務 等 消防施設点検2回、空調設備点検2回、電気設備点検6回	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
<b>2</b>	<b>環境保全研究所研究等事業費</b>	32,996 千円	21,785 千円	17,197 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	研究等事業費	直接	試験研究検査用品消耗品 医薬材料費 等 研究課題の推進23題、検査件数22,777件(放射能検査を除く。)	
2	放射能調査費	直接	大気常時監視システムリース代 検査消耗品代 調査補助金賃金 等 放射能検査件数8,973件（内訳：県内環境試料の全β放射能（96件）、放射性核種分析（91件）及び空間放射線量率の調査（連続）、サーベイメータによる空間放射線量率の調査（12件））	
3	放射能等測定機器点検業務	委託	放射能モニタリングポスト点検 ゲルマニウム半導体検出器点検委託 β線自動測定装置点検 等 上記「2 放射能調査」に際し、実施した点検業務内訳：機器点検（放射能モニタリングポスト1基、ゲルマニウム半導体核種分析装置2基、β線自動測定装置1基）	